

平成27年4月9日  
日本生命保険相互会社

## ニッセイ インターネットアンケート ～4月:「女性の活躍推進」について～

日本生命保険相互会社(社長:筒井義信)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ(<http://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「女性の活躍推進」に関するアンケート調査を実施いたしました。

来月は「結婚」に関するアンケート調査結果を発表いたしますので、ご期待ください。

### 《調査概要》

- 調査期間：平成27年3月1日(日)～3月20日(金)
- 実施方法：インターネット(PC・携帯電話モバイルサイト)による回答
- 調査対象：「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューアンケートへの訪問者
- 回答者数：8,570名(男性:4,542名、女性:4,028名)

<年代別回答者数>

[名]

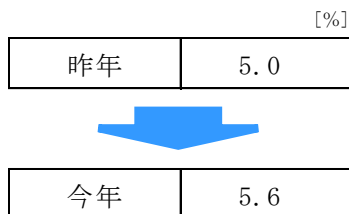
年代		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
合計	男性	240	779	1,471	1,323	579	150	4,542
	女性	355	825	1,204	994	493	157	4,028
合計		595	1,604	2,675	2,317	1,072	307	8,570
占率		7.0%	18.7%	31.2%	27.0%	12.5%	3.6%	100%

- 質問1 4月10日は「女性の日」であることをご存知ですか？  
質問2 日本経済の発展に「女性活躍推進」は重要と思いますか？  
質問3 「女性活躍推進」が進んでいる企業・団体のイメージは？  
質問4 活躍している女性のイメージは？  
質問5 女性が活躍するための必要な要素は？  
質問6 近年、職場などで女性の活躍が進んできたと思いますか？  
質問7 今後、職場などで女性の活躍が進むと思いますか？  
質問8 配偶者控除の見直しが検討されていることをご存知ですか？  
質問9 配偶者控除が、女性の就業状況に影響を与えていると思いますか？  
質問10 女性で最も活躍していると思う著名人は誰ですか？  
質問11 「女性の活躍推進」に最も適任だと思う著名人は誰ですか？

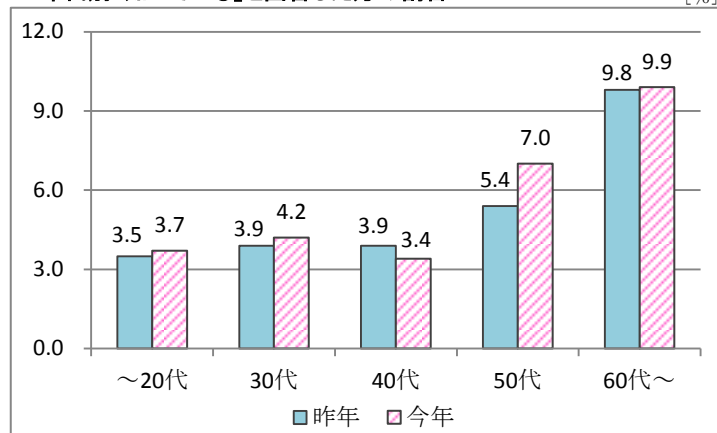
質問1 4月10日は「女性の日」であることをご存知ですか？（回答者数：8,570名）

○ 「女性の日」を知っていると回答した方は全年代で、昨年の5.0%から5.6%へと増加した

■全年代「知っている」と回答した方の割合



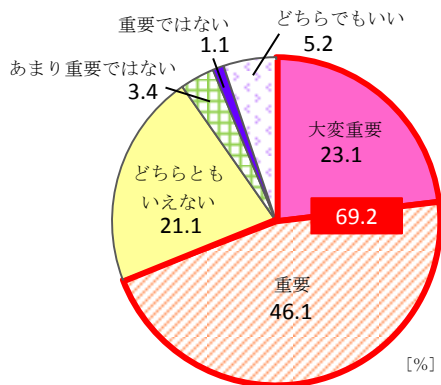
■年代別「知っている」と回答した方の割合



質問2 日本経済の発展に「女性の活躍推進」は重要と思いますか？（回答者数：8,570名）

- 全年代で約7割の方が、日本経済の発展に「女性の活躍推進」が重要と回答
- 年代別に見ると、60代以上を除く全層で、女性の方が「女性の活躍推進」を重要と認識している。また、「大変重要・重要」と回答した方の割合は昨年と比べてやや低下している

■全年代



■年代別「大変重要・重要」と回答した方の割合

<昨年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	72.3	65.8	66.3	71.3	76.6	78.5
女性	72.7	73.6	71.2	70.6	74.9	75.8

<今年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	68.7	62.1	65.3	65.2	70.7	78.1
女性	69.8	70.7	66.8	66.9	72.9	73.5

<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>



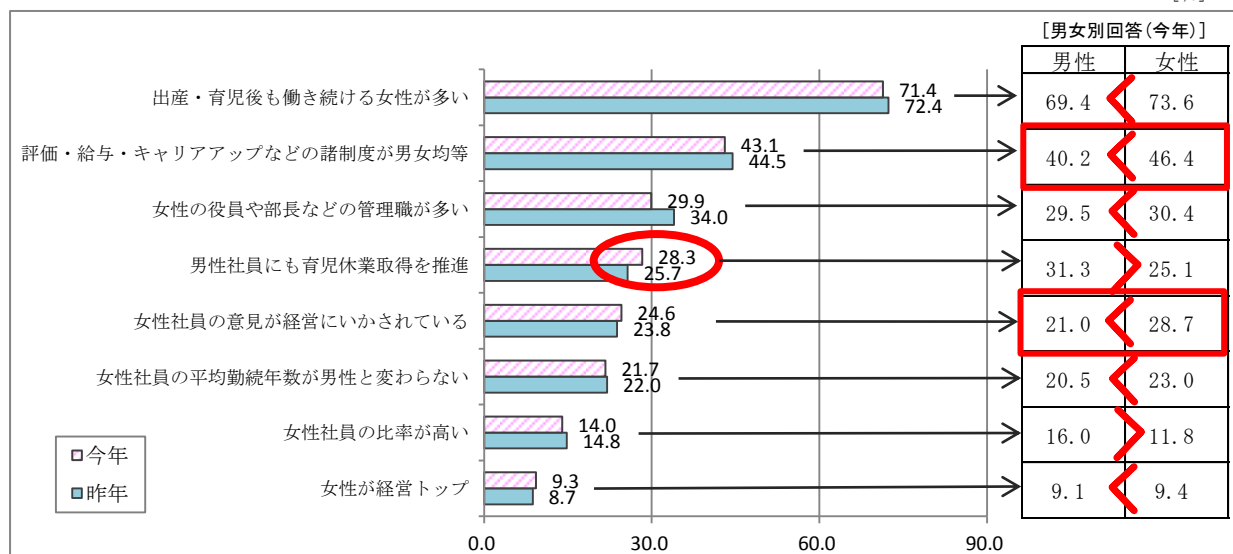
「女性の日」は戦後初の総選挙（1946年）で初めて婦人参政権が行使された日にちなんで設けられた記念日ですが、「知っている」割合は全体で5.6%、60代以上でも9.9%にとどまっています。

日本経済の発展に「女性の活躍推進」が「大変重要・重要」と回答した割合を昨年と比較すると、男性の40～50代で若干低下しています。女性の活躍推進によってポストを巡る競争がより激しくなる等、具体的な影響を受ける年代で、「女性の活躍推進」を重要だと考える割合がやや低下傾向にあることが注目されます。

質問3 「女性活躍推進」が進んでいる企業・団体のイメージは？ (回答者数：8,570名)

- 昨年同様、「出産・育児後も働き続ける女性が多い」という方が7割を超え、圧倒的に多い。次いで、「評価・給与・キャリアアップなどの諸制度が男女均等」が続く
- 「男性社員にも育児休業取得を推進」については昨年と比べ 2.6 ポイント増加。また、この項目は女性よりも男性の回答割合が高くなっている
- 男女間での認識差の大きい項目として、「女性社員の意見が経営にいかされている(7.7 ポイント)」や「評価・給与・キャリアアップなどの諸制度が男女均等(6.2 ポイント)」などがあり、いずれも女性の回答割合が男性の回答割合を上回った

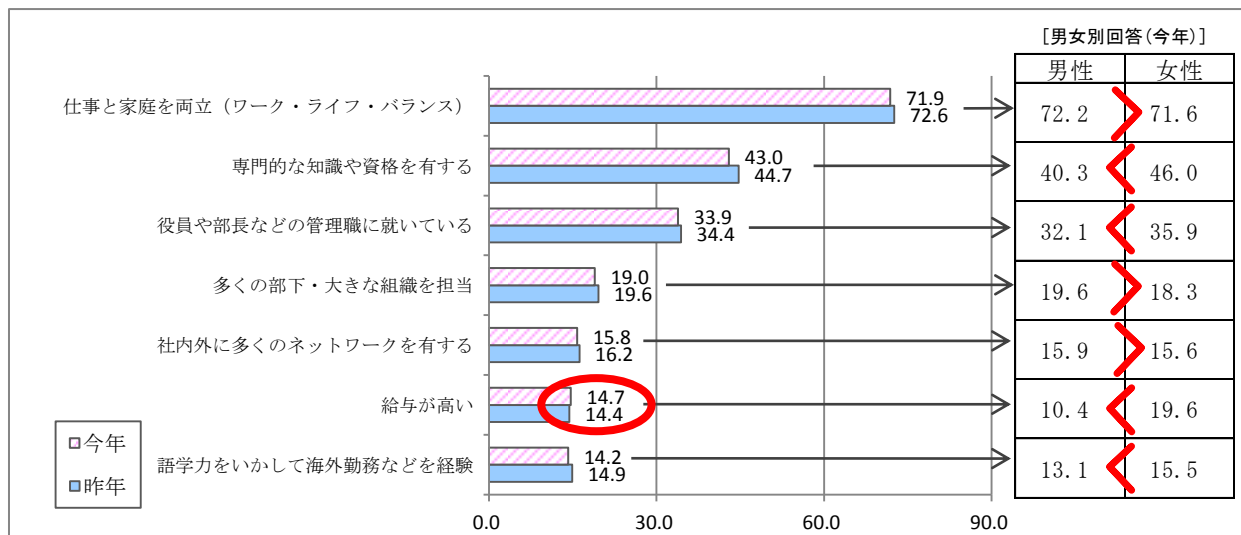
■全年代の回答 ※複数回答可



質問4 活躍している女性のイメージは？ (回答者数：8,570名)

- 昨年同様、「仕事と家庭を両立(ワーク・ライフ・バランス)」という方が7割を超え、圧倒的に多い。次いで、「専門的な知識や資格を有する」が続く
- 昨年との比較では、「給与が高い」という回答のみ増加した

■全年代の回答 ※複数回答可

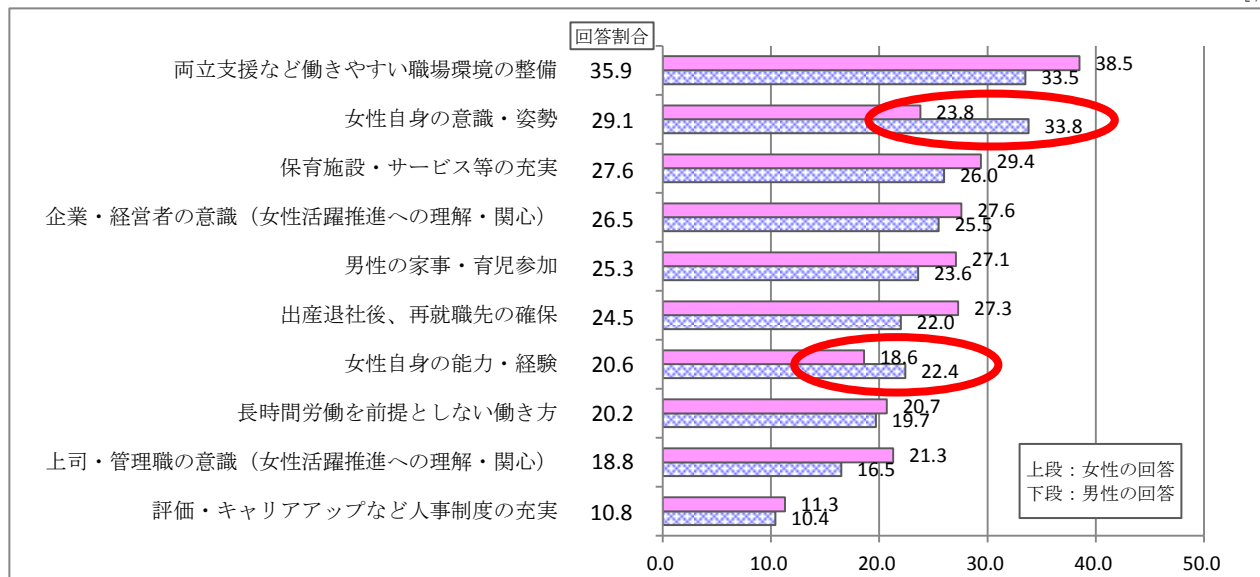


質問5 女性が活躍するための必要な要素は？（回答者数：8,570名）

- 「両立支援など働きやすい職場環境の整備」と回答された方が最も多かった
- 男女別に見ると、「女性自身の意識・姿勢」「女性自身の能力・経験」の2項目については、男性の回答割合が女性の回答割合を上回ったものの、その他の項目はすべて女性が上回っている

■全年代の回答 ※複数回答可

[%]



<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>

「女性の活躍推進」が進んでいる企業・団体のイメージについては、4位の「男性社員にも育児休業取得を推進」が昨年より微増した一方で、3位の「女性の役員や部長などの管理職が多い」がやや低下したことから、両者がほぼ拮抗しています。「男性社員にも育児休業取得を推進」は、男性の回答割合が女性のそれを若干上回っていることも注目されます。

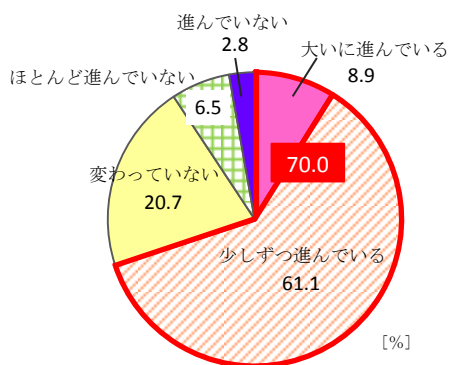
活躍している女性のイメージとして、「専門的な知識や資格を有する」や「役員や部長などの管理職に就いている」を押さえて、「仕事と家庭を両立」がトップになっているのは、女性がより大きな家庭責任を担っている現状を映し出した結果だともいえそうです。

女性が活躍するために必要な要素については、「女性自身の意識・姿勢」や「女性自身の能力・経験」をあげる割合が、男性で高くなっています。「女性の活躍推進」に向けて、女性自身も、より積極的な意識・姿勢で仕事に取り組み、能力を高め、経験を積んでいくことが、特に男性から期待されています。

**質問6 近年、職場などで女性の活躍が進んできたと思いますか？（回答者数：8,570名）**

- 全年代で見ると、8割を超えた昨年を下回るものの、今年も7割の方が「女性の活躍が進んでいる」と回答した
- 昨年は男性が女性を上回って「進んでいる」と回答していたが、今年は女性の方が「進んでいる」と回答した割合が高くなっている

■全年代



■年代別「大いに(少しずつ)進んでいる」と回答した方の割合

<昨年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	83.4	80.5	78.9	83.2	86.4	85.9
女性	79.3	78.5	76.4	78.8	80.8	84.0



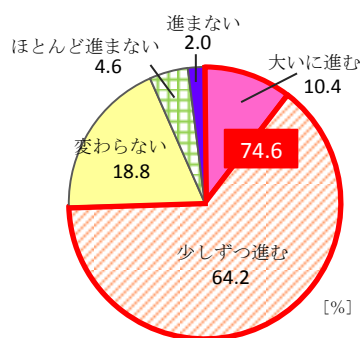
<今年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	67.1	63.5	68.3	73.2	77.8	70.4
女性	71.0	64.5	65.4	73.9	76.5	69.6

**質問7 今後、職場などで女性の活躍が進むと思いますか？（回答者数：8,570名）**

- 昨年との比較では、全体的に「進む」と回答した割合が低下したものの、全年代で7割を超える方が、今後、女性の活躍が進むと回答した

■全年代



■年代別「大いに(少しずつ)進む」と回答した方の割合

<昨年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	82.5	78.0	78.3	81.2	85.7	88.2
女性	77.0	75.6	74.1	74.2	80.6	84.2



<今年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	76.2	68.8	69.2	73.8	80.3	83.5
女性	72.9	76.6	65.9	68.3	78.5	79.8

**<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>**

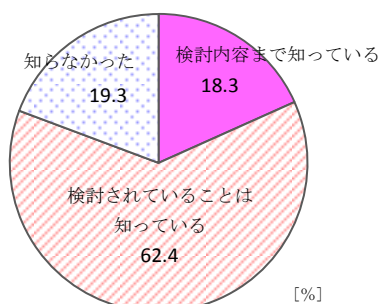
「女性の活躍が進んできたか」「今後、女性の活躍が進むか」といういずれの質問についても、「進んでいる」「進む」という割合が、昨年比べてやや低下傾向にあることが注目されます。低下傾向は特に男性で顕著にみられていますが、女性についても、「進んでいる」は20～30代等で、「進む」は30代で低下幅が大きくなっていることが気にかかるようです。

女性の活躍が「進んでいる」「進む」という回答割合の低下の理由としては、女性の活躍推進に対する期待水準が上がり、評価が辛口になってきた等の可能性も考えられます。女性の活躍をより実効的に進めていくためには、女性のみならず、男性の理解・納得も得られるような「進め方」を検討する必要があるでしょう。

**質問8 配偶者控除の見直しが検討されていることをご存知ですか？（回答者数：8,570名）**

- 全年代で約8割の方が、配偶者控除の見直しが検討されていることを知っていると回答した
- 「検討内容まで知っている」と回答した方は、すべての年代で男性が女性を上回った。また、男性は年齢層があがるとともに認知度が高まっている
- 20代以下層では4割を超える方が「知らなかった」と回答した

**■全年代**



**■年代別回答内容**

<検討内容まで知っている> [%]

	全年代	~20代	30代	40代	50代	60代~
男性	21.6	15.4	20.7	20.8	22.5	24.7
女性	14.5	14.9	16.5	14.2	14.1	12.8

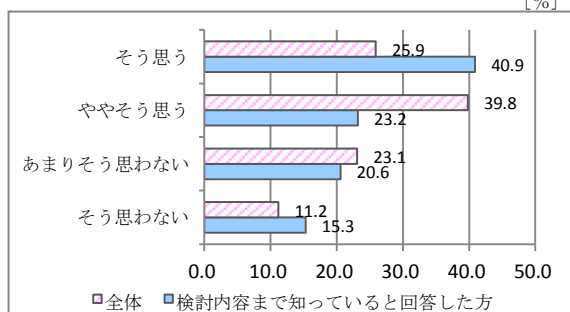
<知らなかった> [%]

	全年代	~20代	30代	40代	50代	60代~
男性	17.9	45.8	23.1	17.2	13.5	12.3
女性	20.9	42.5	23.5	19.2	13.6	19.8

**質問9 配偶者控除が、女性の就業状況に影響を与えていると思いますか？（回答者数：8,570名）**

- 全年代で6割を超える方が、影響を与えていると回答した。特に、質問8で「検討内容まで知っている」と回答した方については「そう思う」と回答した方が4割を超えた
- 質問8で「検討内容まで知っている」と答えた方について、年代別・男女別に見ると、すべての年代で女性が男性を上回って「影響を与えている」と回答した

**■全年代**



**■年代別 検討内容まで知っていると回答した方のうち、「そう思う・ややそう思う」と回答した方の割合**

[%]

	全年代	~20代	30代	40代	50代	60代~
男性	60.1	62.2	62.7	59.8	59.4	58.9
女性	70.8	73.6	75.0	71.9	66.4	67.5
(対男性)	10.7	11.4	12.3	12.1	7.0	8.6

**<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>**

配偶者控除の見直しについて「検討内容まで知っている」割合が、全年代で男性のほうが女性よりも高くなっています。この背景には、配偶者控除の有無によって、多くの場合は男性の手取り収入が変わってくるということがあるのかもしれませんが。

配偶者控除が、女性の就業状況に影響を与えているかどうかという点については、「検討内容まで知っている」人の「そう思う」という割合が、全体を大きく上回っていることが注目されます。また、女性の就業状況に影響を与えていると思う割合は、男性よりも女性のほうが高くなっており、配偶者控除が就業に対する心理的な壁となっている様子がみてとれます。

質問 10 女性で最も活躍していると思う著名人は誰ですか？（回答者数：8,570名）

順位	氏名	回答数
第1位	黒柳 徹子 さん	429 名
第2位	蓮舫 さん	195 名
第3位	緒方 貞子 さん	179 名
第4位	アンゲラ・メルケル（ドイツ首相） さん	168 名
第5位	ヒラリー・クリントン（アメリカ前国務長官） さん	164 名

質問 11 「女性の活躍推進」に最も適任だと思う著名人は誰ですか？（回答者数：8,570名）

順位	氏名	回答数
第1位	蓮舫 さん	280 名
第2位	黒柳 徹子 さん	250 名
第3位	野田 聖子 さん	217 名
第4位	小淵 優子 さん	196 名
第5位	安倍 晋三 さん	175 名

以上